

読者新聞

群馬 GUNMA 馬

前橋支局 〒371-0026 前橋市大平町3-7-1 電話027-232-4311 Fax 232-2262
高崎支局 〒370-0831 高崎市あらか町67-1-9F 電話027-322-2834 Fax 324-7553
太田支局 〒373-0033 太田市西本町47-10 電話0276-31-5400 Fax 31-5417
藤岡支局 〒375-0051 藤岡市本町250-5 電話0274-24-7330 Fax 24-7335
桐生支局 〒44-1414 伊勢崎通都 25-3150 沼田支局 23-4311 澁川支局 24-4311

販売、配達
販売会 027-251-1666 前橋 235-6600 前橋南 265-6280 新前橋 251-1077 高崎北 323-0522
高崎南 323-0458 安中 382-1811 沼田 23-0330 澁川 24-6318 藤岡 22-0624 富岡 62-0169
中之条 75-2322 新町 42-0268 前橋北部 283-7575 桐生 44-4311 伊勢崎 24-8555 太田 22-2323
草津 72-0667 新太田 52-4611 大間々 72-1226 大泉 62-3551 邑楽 88-0675 伊勢崎NT 63-5510

メールは maebashi@yomiuri.com へ

広告 前橋 255-2511 太田 46-6165 蕨行 前橋 243-5201 新込 前橋 253-2304

キーマン

根岸物産

根岸 幹彦 社長 45

種類を取扱う百貨店「麦挽屋・今助」も開いている藤岡市の食品メーカー「根岸物産」は、キムチとトマト味を組み合わせた焼きうどん「キムトマうどん」を始め、地場産品を生かした新しい種類商品を多数開発し、技術力の高さと品ぞろえの豊富さで全

国に知られ始めている。さらに世界文化遺産候補「富岡製糸場と絹産業遺産群」を構成する高山社跡の保存と知名度アップに取り組み商品展開も進めている。根岸幹彦社長(45)に今後の地元への関わり方などを聞いた。

根岸物産 藤岡市藤岡879。根岸幹彦社長の祖父佐治さんが戦後間もなく、同所で製粉・製麺を手がけた。1971年3月、父康弘さんが根岸物産を設立、生麺中心の製麺業に特化した。「塩無添加うどん」、細麺の「超ちぢれ中華麺」、2012、13年にモンド・セレクション金賞を連続受賞した「今助地粉焼きうどん」など、立て続けに新商品を開発し、業容を拡大している。昨年から冷凍生麺を米国本土に輸出、今年はハワイと香港向けに売り出し準備中。

「キムチとトマトを加えた焼きうどん「キムトマうどん」は、テレビで紹介されるなど群馬・藤岡の名物料理として知られ始めている。開発のきっかけは、

「やはり、藤岡名物となるB級グルメを一から作りたかった。この地方では良質の小麦、トマト、ネギやキムチ材料の白菜が採れるのに、これといった特産品に結び付いていない。それで、親しい飲食店主たちと相談しながら研究を重ね、満を持して一昨年春の「藤岡ふじまつり」のイベントで売り出した。行政や商工業者、多野藤岡食品衛生協会のメンバーなどが個人的に参加する応援団「上州藤岡類(むぎまつら)倶楽部」が生まれ、品質向上と宣伝に数多くの協力を得ている」



焼きうどん「キムトマうどん」

「市内で飲食店や旅館など食事を提供している業者の加盟店を募集しており、今は協力店6店に麺を提供し、それぞれの味付けを工夫してもらっているところだ。協力店の営業形態は、イタリアン、居酒屋、焼き肉、中華料理とバラバラで、それぞれの特徴を生かしたキムトマうどんを売っている。自社ブランドでのパッケージ製品化も計画しているが、むしろ多くの店の参加を得て、消費者が選べるパリエーションをどんどん増やして行きたい。これからはますます楽しみたい」

B級グルメ 地元と育てる



製麺業は「地元の支持がなければやっていけない商売」と話す根岸幹彦社長(24日、藤岡市で)＝安川純撮影

「キムトマ」各店で工夫

「麺類で地元振興に協力したいと考える理由は、」

「現在の製品ラインアップは130種類。会社の規模からすると常識以上に多いと思うが、それぞれに由来があるのですべて在庫が切れないように時期を計算して計画生産している。さらに特徴のある商品を増やそうと、地場産品の情報を常に集めている」

「鮮度が命の生タイプ中心で続けていこうと思っている。それとニッチ(すき間)市場だ。生活習慣病などで塩分を控えている人たちの需要に応えた「塩無添加うどん」、県産の「一社」技術」に認定されたスープによ

「原料の小麦について。県内はもともと、麺に適する良質小麦が作られていた。日清製粉、日本製粉などの大手製粉メーカーは古くから県内に生産拠点を持っていた。とはいえ、当社も安価な定番商品については国産小麦使用率が10%以下。コストが全然違うからだ。今年に入ってから輸入小麦価格の上昇は痛い、それを機に少しでも国産比率を上げることができれば、と思っている」



32 「利根川の跡」を歩く

写真は今前橋市上堀井町の「墓石」

32 県庁で仕事体験

33 カンヌ受賞 数々の前橋

33 衆議院議員の資産公開

37 自転車レース(即決員)

37 「愛の華」主題歌PR

37 おくやみ

群馬トヨベツト
ハイブリッド
マイスターのいる
群馬トヨベツト